様式第６号（第９条関係）

事業成果報告書

＜事業実施の概要＞

１　事業名　シンポジウム「第20回ＷＩＬＬ～もうひとつのこどもの日～」の開催
２　事業実施期間　　平成30年10月7日
３　内　容
第１部
遺族からのメッセージ
「ある日突然わたしたちの人生は」
第２部
子どもたちが残したもの

※詳細は別添資料のとおり
＜事業による効果の概要＞
〇　参加者数　280人
〇　取材報道機関名
産経新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、京都新聞、日日新聞、、、読売テレビ、関西テレビ、テレビ大阪、朝日放送
〇一部では、壇上に24人の子供たちの写真を飾り、事件紹介をした。
一年に一回だけでも「WiLL」の場所で忘れられた子どもたちのことを思いながら、その思いをみんなで共有する時間を過ごすことが出来た。
二部では、今年で20回という記念すべき集会だったので例年のように専門家は招かず、会員といつも黒子に徹しながら支えてくれている学生スタッフが、壇上に上がりこの20年間を振り返った。
被害者が利用できる色々な制度はできたけれど、損害賠償の未払い問題までは、まだまだ考えられていないこと、被害者が加害者の出所後に抱える恐怖や不安、加害者の矯正教育に対しての不信感等、多くの会員が残された問題を訴えることが出来た。
学生スタッフは、大学生だけでなく中学生、高校生の時から関わっている人もいるので、それぞれの人に会との出会いから話をしてもらい、関心を持って関わること、そしてそれを出来るだけ続けることの大切さなどを話した。
会場の参加者も一般の人、関係者等、広がってきている。若い参加者も増え、年齢の幅も広がってきている。重たい話だと　か、難しい問題だと感じられてしまいますが、少しでも関心を持ってもらう事で、命の大切さにもつながり、いじめはしない、暴力を起こしてはいけないという事を知ってもらいたい。そして、その事が、子供達を被害者にも加害者にもしない事につながると思う。当事者とそうではない人の距離を少しでもなくしていくために、これからも焦らずおごらず話し続けていく場所「WiLL」でありたい。